

(平成29年度)第1回運営推進会議実施報告書

平成29年9月22日

事業所名	大田区立矢口高齢者在宅サービスセンター	サービスの種類	認知症対応型通所介護
電話番号	03 (5711) 0851		
開催日時	平成29年9月20日(水) 14:00 ~ 15:00		
開催場所	大田区新蒲田2-12-18 大田区立矢口高齢者在宅サービスセンター 会議室		
出席者 <u>9人</u>	(内訳)		
	利用者	なし	
	利用者家族	2名	
	地域の代表	民生委員 1名	
	区・さわやかサポート	地域包括支援センター 1名	
	その他	シニアクラブ 3名	
事業所職員	2名		
◆活動報告・活動計画 活動報告書(別紙)			
◆活動報告・計画に対する評価			
【ご家族】			
・特にないです。 ・このままで。看取り聞いたことがあるが内容は知らなかった。			
【シニアクラブ】			
実施内容に対しての質問			
Q. シュウマイまんは何？			
A. パンに包んだシュウマイで、肉まんの小さなものです。			
Q. 看取りについて会合などで話したいが資格は必要なのか？			
A. 特に資格は必要ないです。内容をきちんと把握しているのであれば。			
Q. 知友(広報誌)で活動状況はわかるが、前月の活動写真が当月の内容と一緒に見えてしまい、わかりにくい様に思う。少し改善しては？			
A. 見やすい様に次月から改善します。			
◆事業所に対する要望・意見			
【ご家族】			
①今年から利用しているのであまりわかりませんが宜しくお願いします。以前より認知症が何となく進んでいる様に感じるがセンターはこのままで良いです。			
【民生委員・シニアクラブ】			
【今年度の上半期での認知症についての活動を報告してもらおう】			
[民生委員]			
・講習会や勉強会には出ていて受ける側になっている事が多い。			
・担当地域を訪問するが認知症と確認できず何ヶ月か後にヘルパーや家族が来ている事がわかる。			
[シニアクラブ]			
・クラブとして固まった場所に住んでいないので(マンションなど)確認しにくい。			
・会員同士で話すのみで個別には話していない。確認がしにくい。			
・自分の住んでいるマンションにはデイサービスを利用している人が居ないので。80歳から90歳代の人が住んでいない。講習会に出るくらい。			
・講習を2回やっている。			
・情報を取っていくのは難しく、あれ？と思った時は同マンション内の見守りの人に声を掛ける。認知症の人のケアをしている人の事も気にしている。			
②認知症になったら自分で自覚できるのか？最初に気づくのは？			
③直ぐに名前を忘れてしまうのは認知症？			
④どの様に感じたら認知症？			
【看取りについて】			
⑤入所施設やデイサービスで実施しているの？			
・少し驚いているのと感じている。ホスピスケアについては、日本ではまだ広がっていないしびっくりしている。			
・どうやって広げるかという会議には出たことがある。シニアクラブの会員に広げたい。デイサービスではしていないと思っていた。			
・デイサービスは元気な方というイメージを発想しがちだが違った。			
⑥デイサービスで受け入れることができると、環境や生活の流れも変わる(今までの生活を維持できる)ため、周囲に、身近な所ではできると打ち出しても良いのか？			

◆要望・意見に対する事業所からの回答

【事業所・地域包括支援センターからの回答】

- ①困っている事があれば相談して下さい。今後ともよろしく願いいたします。
- ②なった当初は本人も葛藤するし、認知症の種類によっても違うと思います。身近な家族よりも周りの人(第三者)が最初に気づくと思います。本人と家族の受け入れるスピードも違います。
- ③認知症と物忘れは違います。
- ④本人が周りとの会話で違和感を感じたり、ちょっとしたことでイラついたり、認めたくないため葛藤すると思います。第三者の方がわかりやすいです。
- ⑤入所施設では実施しているところと、していないところがあり、デイサービスでは少ないです。看取りをする時は在宅医療や訪問医に切り替えて対応しています。
- ⑥施設によっては断るところもあります。デイサービスでは今回認知症対応型通所介護での受け入れをしましたが、一般通所介護でも看取りはありました。

◆地域・行政等からの情報提供

【イベント案内】

- ・認知症予防のダンス療法について。
- ・認知症サポーターについて。
- ・地域包括支援センターの広報誌について。

◆その他・特記事項

【シニアクラブからの意見】

- ・活動が健康寿命やフレイルと同じような活動をしている。自分たちの健康確認の為に体力測定をしている。
- ・地域連携で役に立つ事をしましょう。
- ・認知症に対しての具体的な受け皿となることは、それなりにできるが、個人情報についての規制が厳しいので難しい。地域からの発信はできるが、個人情報の事があり事業所側からの発信が難しいのではないかと壁があるので踏み込めない部分がある。
- ・会議を開催するだけでなく、声掛けや周りがどの様になっているか？どの様なことを望んでいるのか？の話ができるとうわかりやすいし、一歩でも半歩でも踏み込んで話ができると、認知症の人に対しての地域連携がとれるのではないかと。